



がっこう 学校だより

がっこう
6月号



**Challenge
Dream
Interaction**

れいわ ねん がっ にち
令和4年5月31日
よこはま しりつかみい い だしょうがっこう
横浜市立上飯田 小学校

<http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/kamiida/>

つく よろこ つか たの 作る喜び、使う楽しみ

こうちよう よこやまよしあき
校長 横山 美明

いま ねんせい かていか がくしゅう かたしな にっこうしゅうがくりようごう つか せいさく と く
今、6年生は家庭科の学習では、片品・日光修学旅行で使うナップザックの製作に取り組んでい
ます。ゴールデンウィーク中にご家庭の協力を得て自分で布を揃え、一人ひとりが自分の使いたい
ナップザックをイメージして大きさやデザインを考えました。5年生の時にアルトリコーダー袋を製
作した経験が生きているようで、ゆとりや縫いしろの考え方、縫う手順や出来上がりのイメージもし
っかりともてていました。ただ、ポケットを自分の工夫としてつけようとしている子は、昨年はずけて
いないので、どのくらい大きさがいいか、ナップザックの外側に付けるか内側に付けるか、どうい
う手順で縫い付けるのかなどについて悩んでいる様子でしたが、どの子も使う場面を想像しながら嬉し
うに製作していました。この学習はナップザックが完成すれば終わりというのではなく、作ったもの
を実際に使ってみて、使い易さや丈夫さなどを確認することも必要です。私も20数年前に体験学
習に持って行くために製作したナップザックを今でも使っています。6年生の子ども達にそのぼろぼ
ろのナップザックを見せると、驚くと同時に「今、自分が作っているナップザックも修学旅行が終
っても使うんだ！」と言っていました。子どもは、多少縫い目がずれていたり大きさが合わなかつたりし
ても自分の作ったものを本当に大切に使います。私が担任をしていた時にも同じ学習に取り組んだ
ことがあります。その時は修学旅行中に使う袋ということにしたので、ナップザック以外にも、お
土産を入れる袋やお弁当を入れる袋、洗面用具を入れる袋など様々でした。その中でユニークだ
つたのは、お土産に買う予定の木刀を入れるための袋でした。木刀袋を作った子たちは修学旅行が終
わってからそれを使うのが嬉しくて、まるで忍者のように木刀を袋に入れて背負って遊びに行ってい
ました。数名の男の子がその格好で公園に遊びに行った時、たまたま同じクラスの女の子が他の学
校の女の子と口喧嘩をしていました。相手の学校の子達は、男の子達が木刀も持って加勢にきたと
思って慌てました。その結果、相手校の先生や保護者、警察官までも出動するといった大騒ぎになっ
てしまいました。通報を受け私が駆け付けた時には、木刀を持っていた子達はそんなつもりは全くな
かったので、何が起こったのか分からず大人に囲まれてしょんぼりしていました。次の日にゆっくりと
話をすると、ようやく意味が分かったようでした。今回はナップザックなのでそういった大事になる
ことはもちろんありませんが、子どもは自分の作品にとっても愛着をもちます。今作っているナップ
ザックも修学旅行が終わった後も長く大切に使ってほしいと思います。